

心に残る文化財子ども塾 松江市立佐太小学校

1. 活動の概要

11月14日（木）、松江市立佐太小学校の6年生14人と、「縄文時代～古墳時代の学校周辺の遺跡について」の学習活動を鹿島歴史資料館と佐太講武貝塚、堀部1号墳で行いました。

見学ルートは、小学校→（徒歩）佐太講武貝塚→（徒歩）資料館→（バス）古墳→（バス）小学校で、メインは発掘調査中の古墳見学・発掘体験としました。

貝塚は現在水田等で見ることはできないため、発掘調査当時の写真資料を使って説明しました。資料館では、地元の漁具の企画展を開催中でしたが、特別に縄文土器や弥生土器、須恵器などを触ってもらうコーナーを設けていただき、子供たちに好評でした。

堀部1号墳は、麓から徒歩で10分ほどの丘陵高所にあり、途中にある古墳群を見学しながら到着しました。古墳の大きさ（約70m）は島根半島最大で、佐太小学校校庭のトラックとほぼ同じ大きさであることを説明しました。古墳の埋葬施設は厚い粘土で覆われており、内部の様子は他の古墳調査の写真・イラストを使って説明しました。そして、実際に発掘調査に参加してもらい、土の感触や色の違いを体感してもらうことができました。もっと調査をやりたいという子供たちも多く、とても盛況な授業となりました。残念ながら調査では全く遺物が出土していないため、他の古墳出土品（鏡、剣、玉など）の写真により想像してもらうことにしました。

なお、堀部1号墳の調査成果（島根半島最大の古墳）は、後日報道発表する予定で、このことを伝えると、みんなとても喜んでいました。

2. 活動の様子



3. 活動を終えて

1) 児童の皆さんから

- 住んでいるところの近くに古墳がたくさんあることがわかった。
- 古墳を実際に発掘体験できたのはよかった。
- 古墳の大きさに驚いた。もっと詳しく知りたい。
- 本物の埴輪やまが玉も見てみたい。また、自分で作ってみたい。

2) 担任の先生から

事前の打合せ、授業モデルの提案など、しっかり準備ができていたので、スムーズに実施できた。実際に地元の古墳を使って授業ができたので、(教科書で学んだ)古墳時代と鹿島町のつながりを感じることができた。学校の校庭に古墳を入れた地図によって、大きさが分かりやすくてよかった。今回のような(発掘調査)体験はいつもというわけにはいかないかもしれないが、ぜひこれからも授業に組み込んでもらいたい。

3) 埋文センターから

学校から資料館まで、江戸時代に造られた運河沿いに歩けたのは、とても気持ち良かった。資料館では、館長さんや学芸員さんが、子供たちのために土器専用コーナーを用意していただき、子供たちも自分の手で土器を触ることができたのはとてもよかった。今回の授業は、古墳の発掘調査の時期に合わせていただいたので、ちょうど見ごろの時期に体験ができたのはよかった。残念ながら、古墳からは何も出土していなかったが、かえって子供たちの想像を膨らませたかもしれない。実際に、本物の埴輪やまが玉を見てみたいという希望もあり、出土品がない場合は、センター保管の埴輪やまが玉を持ち込むべきと感じた。また、(修学旅行後だったこともあり)子供たちどうし、先生とも和気あいあいで、こちらも楽しい時間を過ごさせていただきました。